

第2期

健康日本21津島市計画

2016 - 2025



平成 28 年 3 月
津 島 市

はじめに

市長あいさつ

「いつまでも健康で暮らしたい」という願いは、誰にも共通の願いです。

しかし、心も身体も健康を維持し続けることは、容易なことではありません。



日本は、世界に類を見ないスピードで、高齢化が進んでいます。津島市も同様であり、20年後には3人に1人が高齢者となります。これからは、「健康で長寿」が大切となってきます。

津島市では、平成18年3月に、「健康日本21津島市計画」を策定し、平成27年度までの10年間、計画の目標に向けてさまざまな取組を行ってまいりました。

この計画の期間中、平成20年にはメタボリックシンドロームに着目した特定健康診査・特定保健指導が開始されました。また、医療・介護などに関するデータが活用できるようになるなど、私たちを取り巻く社会環境は大きく変化しました。

10年間の計画期間の満了を迎え、健康に関する社会環境の変化などに対応できるよう、新たに、平成28年度から平成37年度までを計画期間とする「第2期健康日本21津島市計画」を策定しました。

新計画において、10年後目指す姿は『世代をこえて 笑顔で^{けんこう}健幸 つながる つしま』です。この姿を目指して、市民の皆さん、関係機関の方々と一緒に、健康づくりに取り組んでまいります。

この計画の策定に当たり、ご尽力いただきました、「健康日本21津島市計画策定委員会」「健康日本21津島市計画ワーキング」の皆様、ご指導賜りました愛知県健康づくり振興事業団の皆様方に心から感謝申し上げます。

平成28年3月

津島市長 日比 一昭

目次

はじめに

第1章 基本的な考え方 1

1. 健康日本21津島市計画の取組（H18-H27） 1
2. 第2期 健康日本21津島市計画 3
3. 第2期 健康日本21津島市計画の方向性 4

第2章 津島市の健康に関する状況 5

1. 人口・死亡の状況 5
2. 医療・疾病の状況 8
3. 介護の状況 12
4. 特定健診・がん検診等の状況 13
5. 第2期 健康日本21津島市計画（H28-H37）概念図 17

第3章 健康づくりの取組 18

1. つくろうよ ひとりひとりの 健康習慣 18
2. しあわせな 笑顔あふれる 仲間づくり 20
3. まちづくり 肝心なのは 市民のWA 22
4. 「第2期 健康日本21津島市計画」ワーキングのまとめ 24

第4章 計画の策定経過と進捗管理 25

1. 第2期 健康日本21津島市計画の策定経過 25
2. 計画の進捗管理 27
3. 評価指標と目標値 28

第5章 資料編 30

1. 現在の主な取組実績 30
2. 用語の解説 31
3. 第2期 健康日本21津島市計画策定委員等名簿 32

※この計画書中の団体名、課名等は、平成28年3月時点のものです。

第1章 基本的な考え方

1. 健康日本21津島市計画の取組（H18-H27）

▶概要

津島市では、市民が生涯にわたって、健康でいきいきと暮らしていけるよう、市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組むとともに、家庭、地域、社会全体で支援する環境づくりを推進していくことを目的として、平成18年3月に「健康日本21津島市計画」を策定しました。この計画の期間中、平成20年4月よりメタボリックシンドローム^(※1)に着目した特定健康診査^(※2)・特定保健指導^(※3)が開始され、新たな生活習慣病予防対策を展開することも必要となりました。

健康日本21津島市計画は、計画策定から10年が経過しており、平成27年度は最終評価の年度となります。

▶取組の概要

健康日本21津島市計画では、次の7つを、健康づくりに取り組む分野としていました。

- 1 栄養・食生活
- 2 身体活動・運動
- 3 休養・こころの健康
- 4 たばこ
- 5 アルコール
- 6 歯の健康
- 7 健康管理

それぞれ、取組の目標と取り組んだ内容は次のとおりです。

〈1 栄養・食生活〉 取組の目標：正しい食習慣を身につける

平成21年度より**健康管理システム**を導入。事業実施に当たり、対象者への受講勧奨が効果的に行えるようになりました。

平成22年度に正職員の**管理栄養士**を健康推進課に配置。

平成24年度より糖尿病発症予防、重症化予防のため、「**糖尿病大学**」「**糖尿病楽ちん生活術**」を開始。「糖尿病大学」の専門コースを修了した者が、「**糖尿病予防し隊**」として糖尿病予防、重症化予防のための**ボランティア活動**を実施しています。

引き続き、ボランティアへの活動支援が必要です。

〈2 身体活動・運動〉 取組の目標：運動を習慣化する

健康推進課の運動教室を修了した者が、**自主グループ**を結成。（平成27年3月末時点22グループが活動中）

平成23年度より健康づくり推進員養成講座を開始。修了した者が「**元気でいよう会**」を結成し、健康まつりやコミュニティイベントへの参画、ウォーキング講座を企画実施しています。

平成26年度には、**健康づくりリーダー**等が津島市独自の「**つし丸たいそう**」を作成。

今後は、グループやボランティアと共に継続して、運動ができる仕組みづくりが必要です。

〈3 休養・心の健康〉 取組の目標：豊かなこころを育み、自分に合った休養法を持つ

平成22年度よりストレス解消法の1つとしてヨガを取り入れた「**こころの健康づくり講座**」を開始。講座を修了した者が**自主グループ**を結成。

平成24年度より**臨床心理士**による「**健康講座**」を実施。ストレスとの付き合い方などの講話を行っています。

平成26年度より自殺予防対策として、「**ゲートキーパー養成講座**」、インターネットによるメンタルチェック「**こころの体温計**」を開始。

今後も、こころの健康づくりに関する取組は重要です。

〈4 たばこ〉 取組の目標：未成年者はたばこを絶対吸わない

たばこの害を知り、禁煙・分煙・防煙に努める

平成21年度より市内小中学校児童・生徒及び保護者等に対する喫煙防止教育を実施。広報等でたばこの害や受動喫煙の危険性について市民に周知しています。禁煙の個別健康教育を実施していますが、対象者が集まりにくく指導につながるものが少なくなっています。

今後も喫煙率の低下に向けた取組が必要です。

〈5 アルコール〉 取組の目標：未成年者や妊婦は飲酒しない

適度な節度ある飲酒を心がける

特定保健指導や健康推進課の講座の中で、節度ある飲酒に関する知識の普及を行っています。アルコール問題に関する健康相談はほとんどありませんが、断酒会の案内など、必要とする対象者につなげられるような支援体制が必要です。

〈6 歯の健康〉 取組の目標：歯の健康づくりに取り組み、8020をめざす

講座の中で、歯科の補助清掃道具や歯ブラシの使い方について啓発しています。乳幼児の保護者、市内保育所、幼稚園、小学校へのむしば予防の健康教育を実施しています。成人の歯科健康診査は、受診率が低率であり、8020（ハチマルニイマル）運動の表彰の該当者については、100名弱です。今後も8020に向けて、活動を継続していく必要があります。

〈7 健康管理〉 取組の目標：自分の健康に関心を持ち、定期的な健診に心がける

平成20年度より、特定健診、特定保健指導を実施。受診率は年々増加していますが、保健指導終了率^(※4)が低いため、今後は保健指導終了率の増加が必要です。がん検診については、受診率は愛知県と同等ですが、胃がんや肺がんの標準化死亡比^(※5)が高いなど、今後さらに40-50歳代の受診者の拡大が必要です。

今後は、健康意識が高くない層へも健康づくりのボランティアと共に健診の受診率の増加、健康に関する意識の向上を図っていく必要があります。

〈まとめ〉

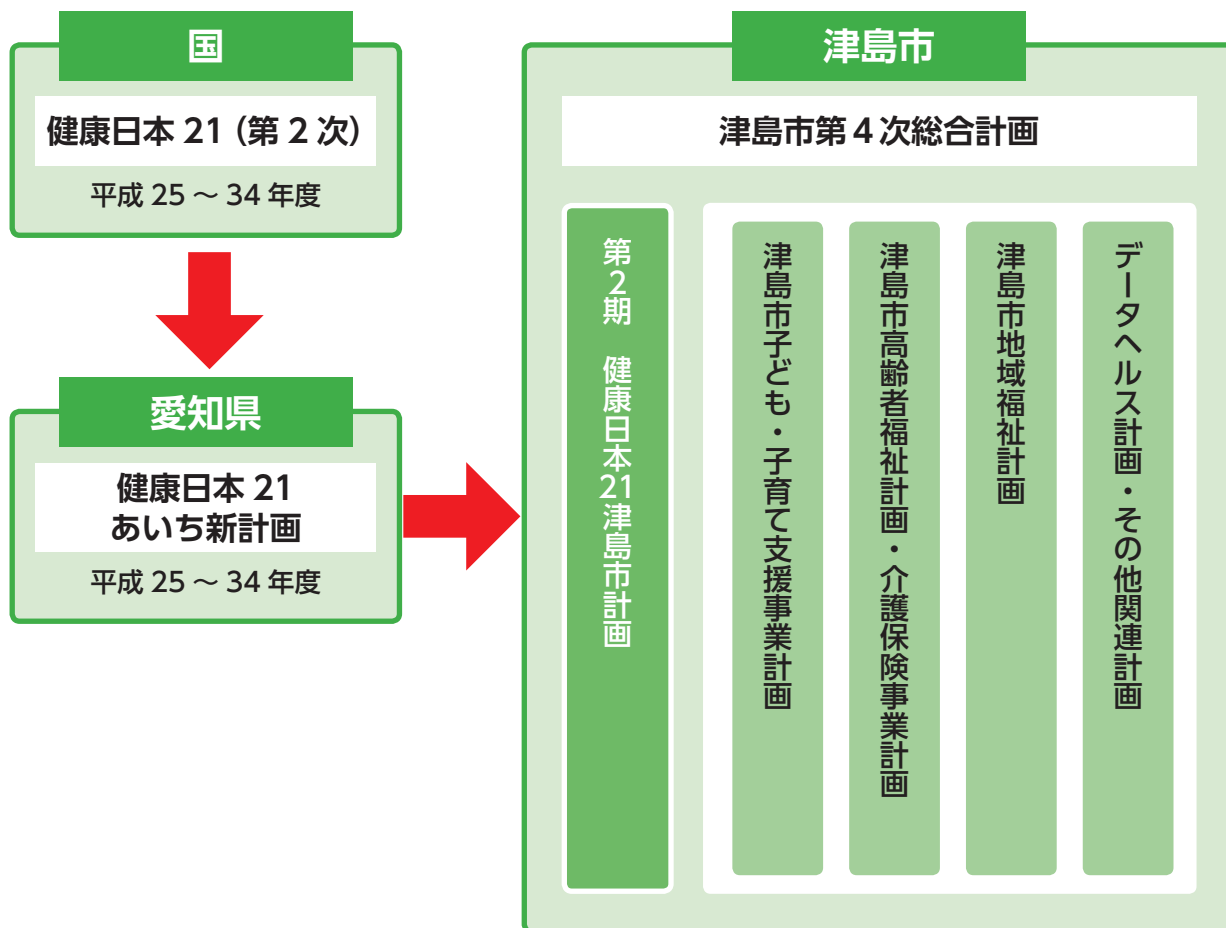
以上の点を踏まえ、第2期 健康日本21津島市計画の取組としては、「ハイリスクアプローチ」^(※6)については、健診結果等からハイリスク者に対して講座、健康相談の勧奨、訪問指導の継続が必要です。「ポピュレーションアプローチ」^(※7)については、ボランティアや他課、関係機関との連携のもと、地域に根差した生活習慣病予防活動が必要です。

〈※1～※7は、用語の解説（p.31）を参照〉

2. 第2期 健康日本21津島市計画

▶位置づけ

本計画は、津島市第4次総合計画を上位計画とし、津島市の関連計画、国の「健康日本21（第2次）」や愛知県の計画である「健康日本21あいち新計画」と整合性を図りながら、乳幼児から高齢者まで、障がい者を含む全ての市民の健康づくりの推進のために策定しています。また、本計画は「食育基本法」に基づく計画内容も含まれます。



▶特徴

「第1期 健康日本21津島市計画」 「中間評価」では、健康に関する市民意識や生活状況などのアンケート調査を実施し策定資料としましたが、「第2期 健康日本21津島市計画」では、地域の背景、医療、介護、健診に関するデータを活用し、津島市の健康課題を明確化し、10年間の計画を策定しました。

▶計画の期間

第2期 健康日本21津島市計画の期間は、平成28年度から平成37年度までの10年間です。平成32年度に中間評価を行い、平成37年度に最終評価を実施します。

	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	H32 年度	H33 年度	H34 年度	H35 年度	H36 年度	H37 年度	H38 年度
第1期計画	第2期 健康日本 21 津島市計画					第2期 健康日本 21 津島市計画					第3期計画	
最終 評価						中間 評価					最終 評価	

3. 第2期 健康日本21津島市計画の方向性

平成18年度から平成27年度までを期間とする第1期 健康日本21津島市計画は、次のような考え方で策定しました。

- 国が、「健康日本21（第1次）」において、〈栄養・食生活〉〈身体活動・運動〉〈休養・こころの健康づくり〉〈飲酒〉〈喫煙〉〈歯の健康〉〈糖尿病〉〈循環器病〉〈がん〉の9分野を対象分野として目標設定したことを受け、〈栄養・食生活〉〈身体活動・運動〉〈休養・心の健康〉〈たばこ〉〈アルコール〉〈歯の健康〉〈健康管理〉の7つを、市が健康づくりに取り組む分野として決めました。なお、〈健康管理〉は、国が対象分野とした〈糖尿病〉〈循環器病〉〈がん〉について、二次予防を含めてひとつの分野に位置づけたものです。
- 市民の健康状態や健康に関する知識、生活習慣病の認識度などを図る目的で、20歳から65歳までの市民1,000人を対象にアンケート調査を実施し、計画策定の基礎資料としました。

第2期健康日本21津島市計画では、改定後の国の「健康日本21（第2次）」や愛知県の「健康日本21あいち新計画」の理念等を取り入れて、基本的な方向性について検討を行いました。その主なポイントは、次のとおりです。

ポイント①

国が、「健康日本21（第2次）」において、次の5項目を基本的な方向と定めたことを受け、市が第1期計画において定めた7つの取組分野を見直した。

1. 健康寿命の延伸と健康格差の縮小
2. 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底
3. 社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上
4. 健康を支え、守るための社会環境の整備
5. 栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善

ポイント②

医療費情報のデータベース化などにより、客観的なデータの収集が可能となったため、アンケートを実施せず、これらデータを基礎資料として計画を策定。国の5項目の基本的な方向を考慮しつつ、既存データを分析して津島市の健康課題を明確化した。

併せて、第1期計画の評価の結果、目標との乖離の大きかった「肥満の人の割合」「特定健診、がん検診の受診率」について重点的に対策を行う必要性を確認した。

これらから、〈生活習慣病の予防・重症化予防〉〈赤ちゃんから高齢者まで全ての市民を健康に〉〈健康づくりを地域のみならず支え合う仕組み〉の3項目を重点課題として設定した。

ポイント③

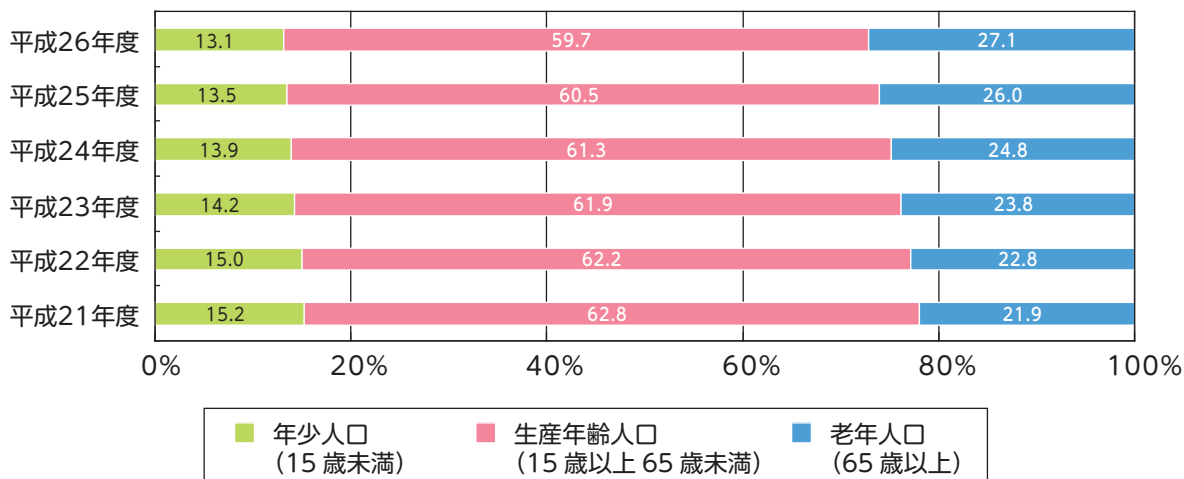
重点課題を踏まえ、津島市が目指すべき姿や、今後10年間で取り組むべき施策について、健康に関する市民団体代表、関係機関の職員、市の職員で構成するワーキングにおいて検討し、その結果をもとに計画案を策定。策定にあたり、専門的な識見を有する者で構成する「健康日本21津島市計画策定委員会」から助言等を得た。

第2章 津島市の健康に関する状況

1. 人口・死亡の状況

キーワード：少子高齢化社会、人口減少社会

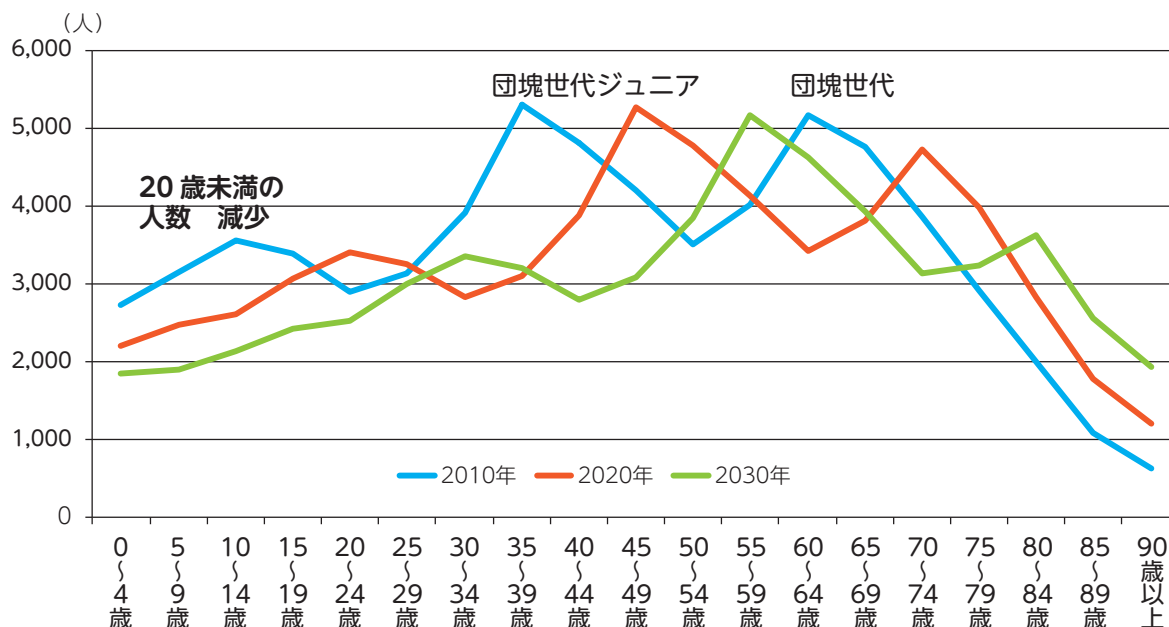
人口割合の推移



出典：あいちの人口

年少人口、生産年齢人口は、減少している。
65歳以上の老年人口は、年々増加しており、ほぼ4人に1人が65歳以上の高齢者となっている。

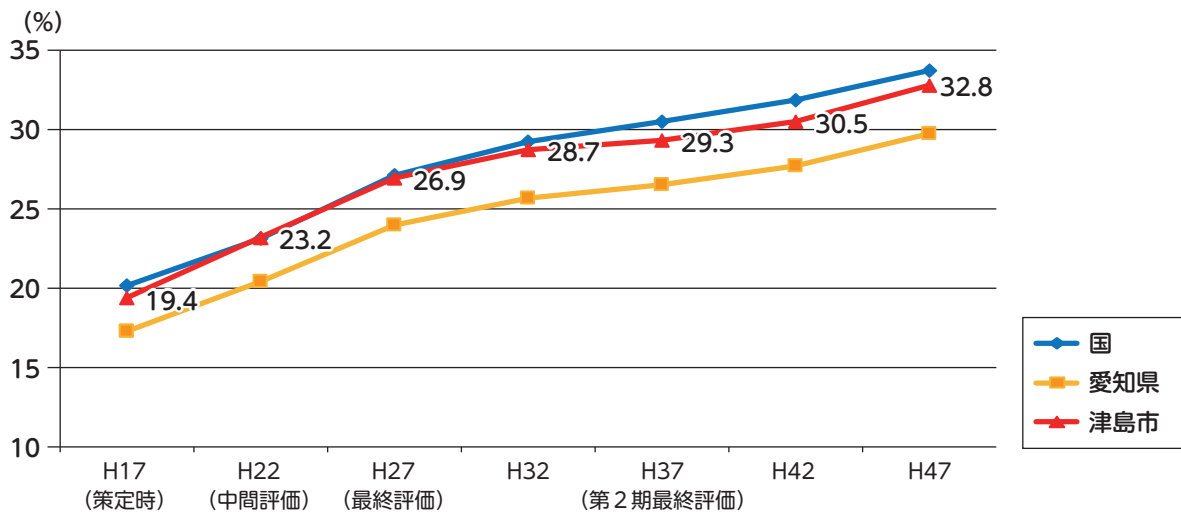
年齢別人口推移



あいち健康プラザより情報提供

2010年には、60-64歳の団塊の世代、35-39歳の団塊ジュニア世代の2つの山がある。2020年には、団塊世代ジュニアが、壮年期となり、生活習慣病予防が必要な年代になる。人口についても2010年には65,000人あったが、今後、減少すると推定される。

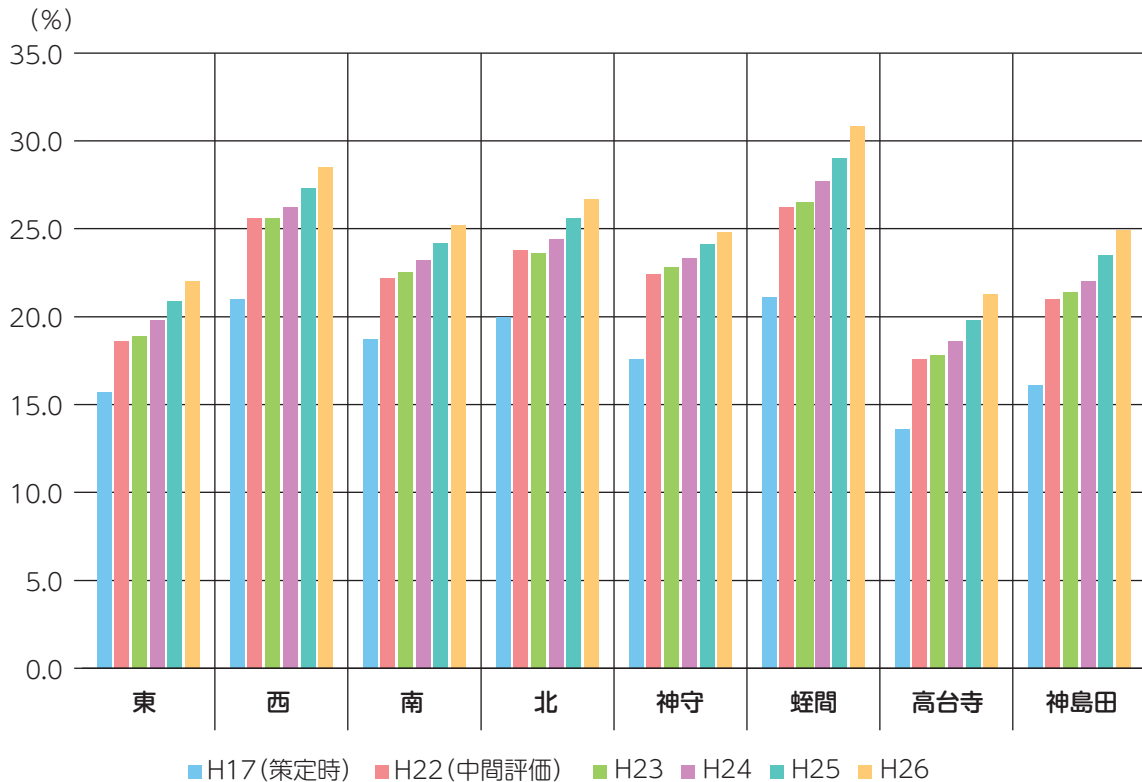
高齢化率推移



出典：津島市第5期高齢者福祉計画・介護保険事業計画

高齢化率は上昇し、平成47年には、32.8%の方が65歳以上の高齢者になる。およそ、3人に1人の割合である。

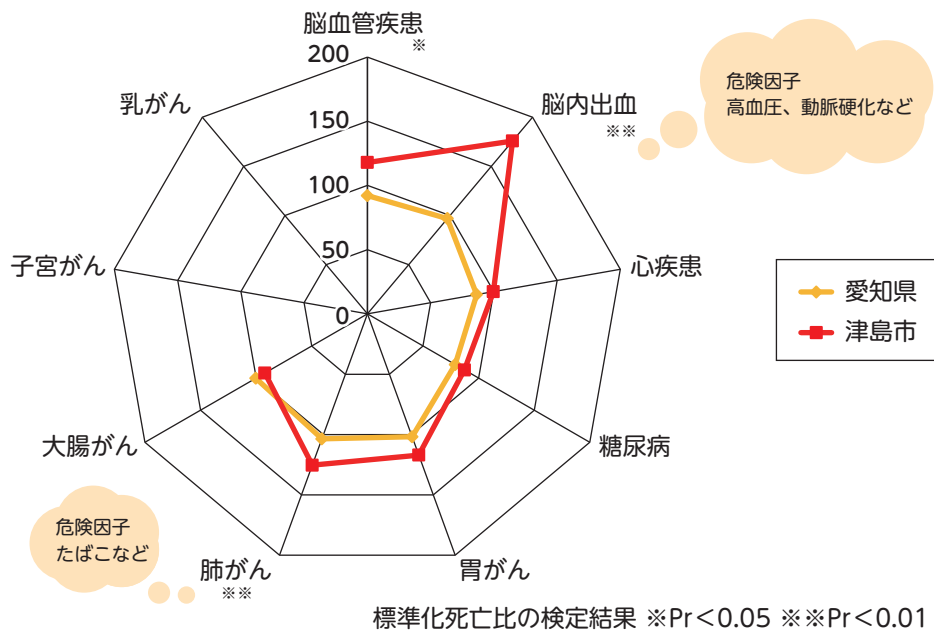
校区別高齢化率



津島市企画政策課 提供資料

- 津島市全体で、高齢化が進んでいる。
- 蛭間、西、北の高齢化率は津島市の中でも高い。
- いずれの校区も高齢化率は、年々上昇している。

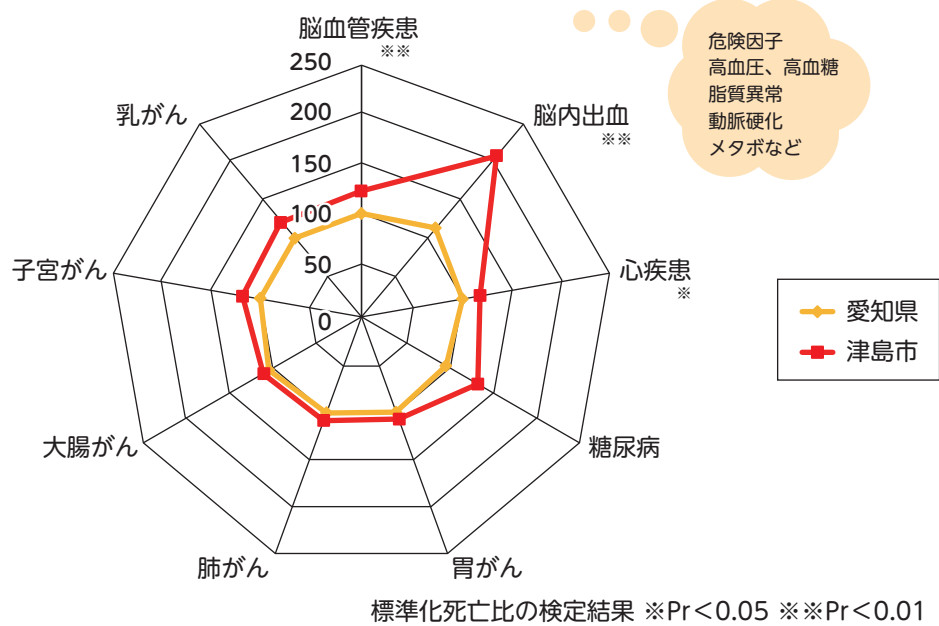
男性の標準化死亡比 (平成 21-25 年)



出典：愛知衛生研究所

男性の標準化死亡比は、気管・気管支及び肺の悪性新生物、脳内出血が有意に高い。

女性の標準化死亡比 (平成 21-25 年)



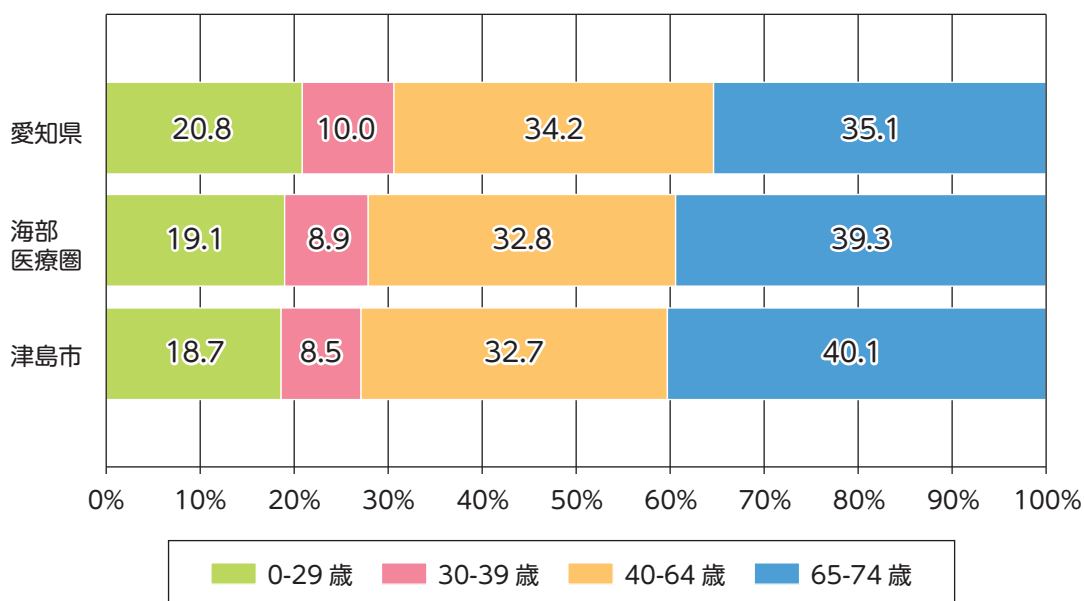
出典：愛知衛生研究所

女性の標準化死亡比は、脳内出血が有意に高く、心疾患も有意に高い傾向がある。

2. 医療・疾病の状況

キーワード：生活習慣病による医療費の増加・人工透析患者の多さ

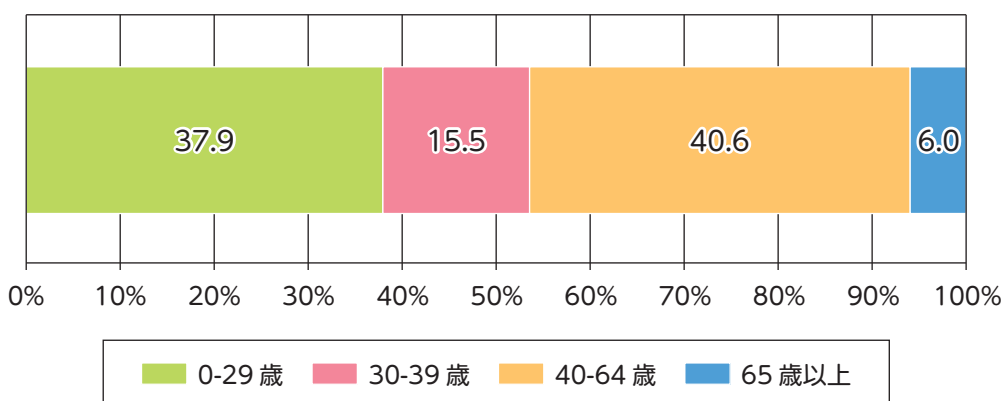
津島市国民健康保険 年齢階級別被保険者数 構成割合



資料：AI Cube 年齢階級別被保険者構成割合より

津島市の国民健康保険被保険者は、65歳以上が4割である。

全国健康保険協会（協会けんぽ） 年齢階級別被保険者数 構成割合（被保険者＋被扶養者）

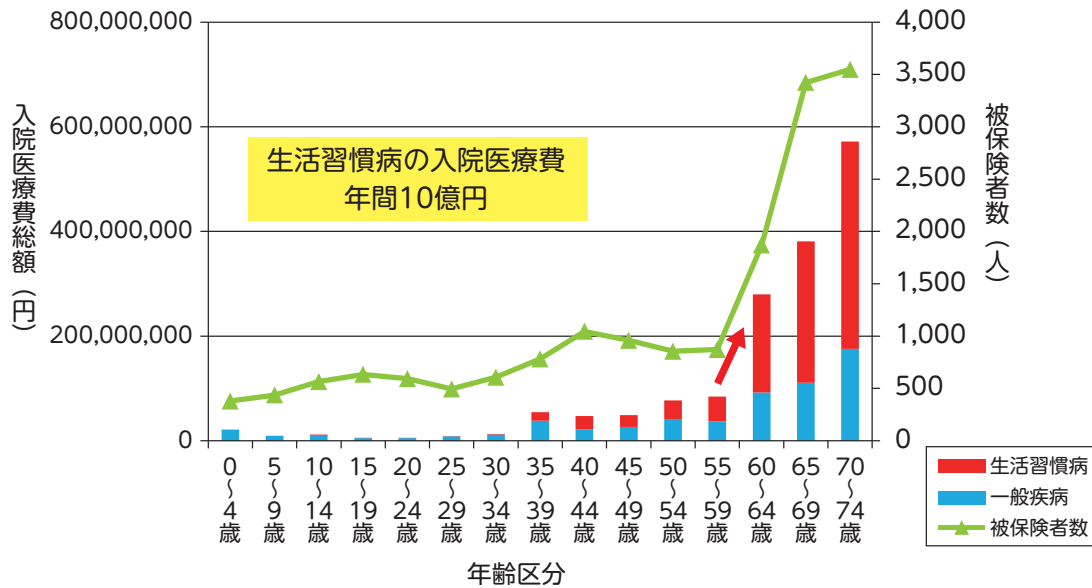


協会けんぽ愛知支部提供資料（平成27年3月データ）

協会けんぽの被保険者及び被扶養者は、40-64歳の割合が4割である。
働く世代の加入者が多い。65歳以上は、6.0%である。

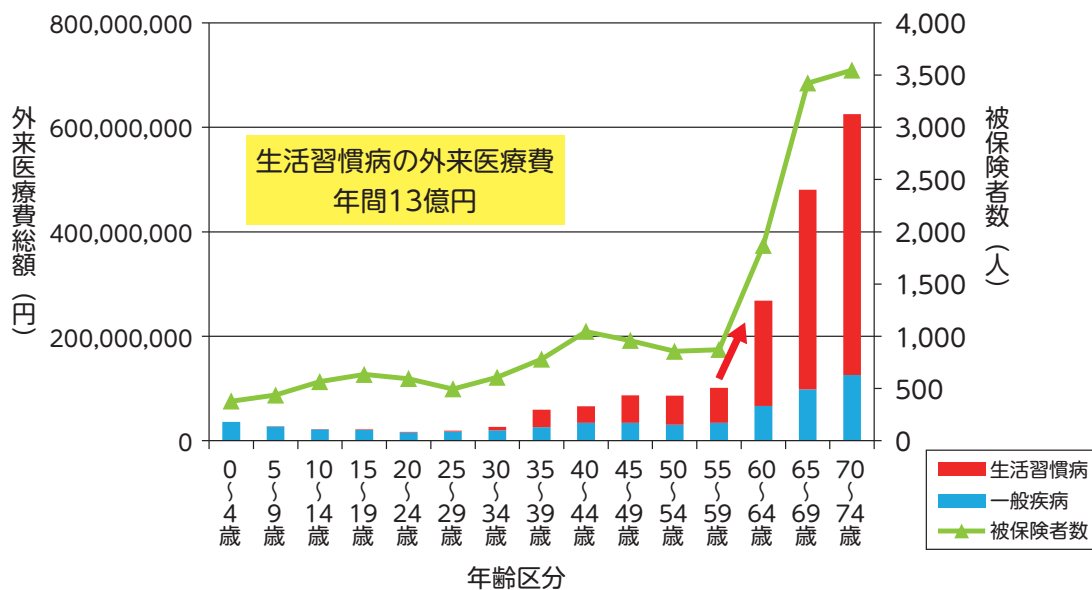
生活習慣病にかかる医療費総額：23億3千万円（入院+外来）

津島市国民健康保険医療費 入院（平成26年）



出典：AI Cube 3-01 年齢階級別入院医療費の状況

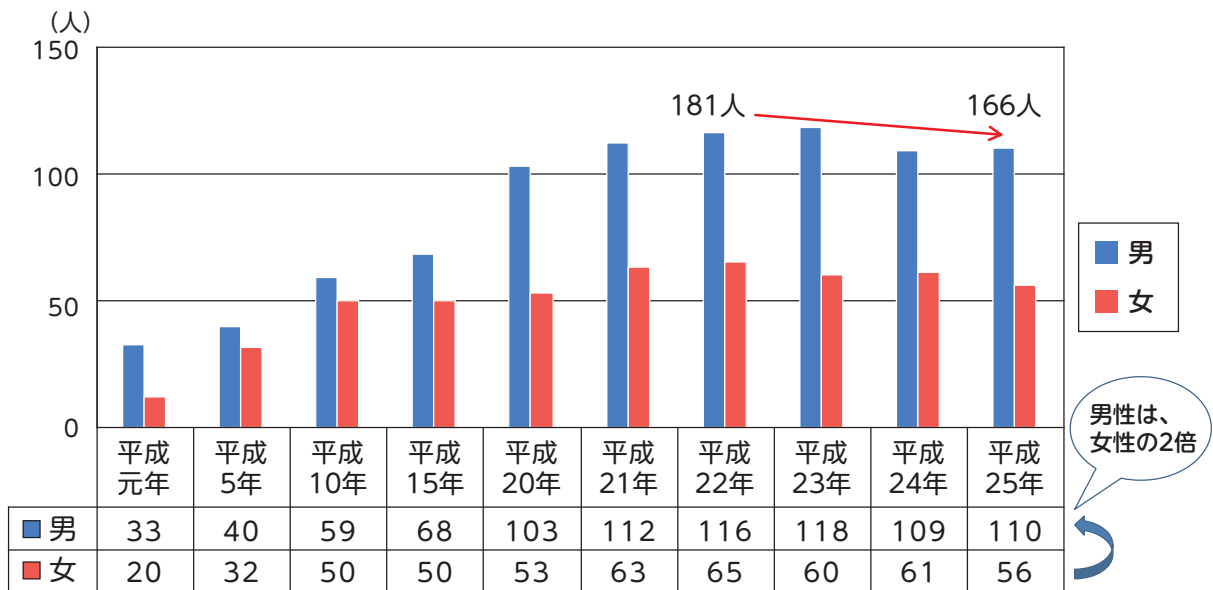
津島市国民健康保険医療費 外来（平成26年）



出典：AI Cube 3-02 年齢階級別外来医療費の状況

- 生活習慣病に関して、入院医療費は10億円で、外来医療費は13億3千万円である。
- 「55～59歳」と「60～64歳」とを比較すると、加入者は2倍の増加であるのに対し、生活習慣病に関する入院医療費は4倍、外来医療費は3倍と大きく増加している。
- 外来、入院ともに、35～39歳から増加し始めている。
- 高齢化が進むと、医療費がさらに増加する可能性が高く、働く世代からの生活習慣病予防が必要である。

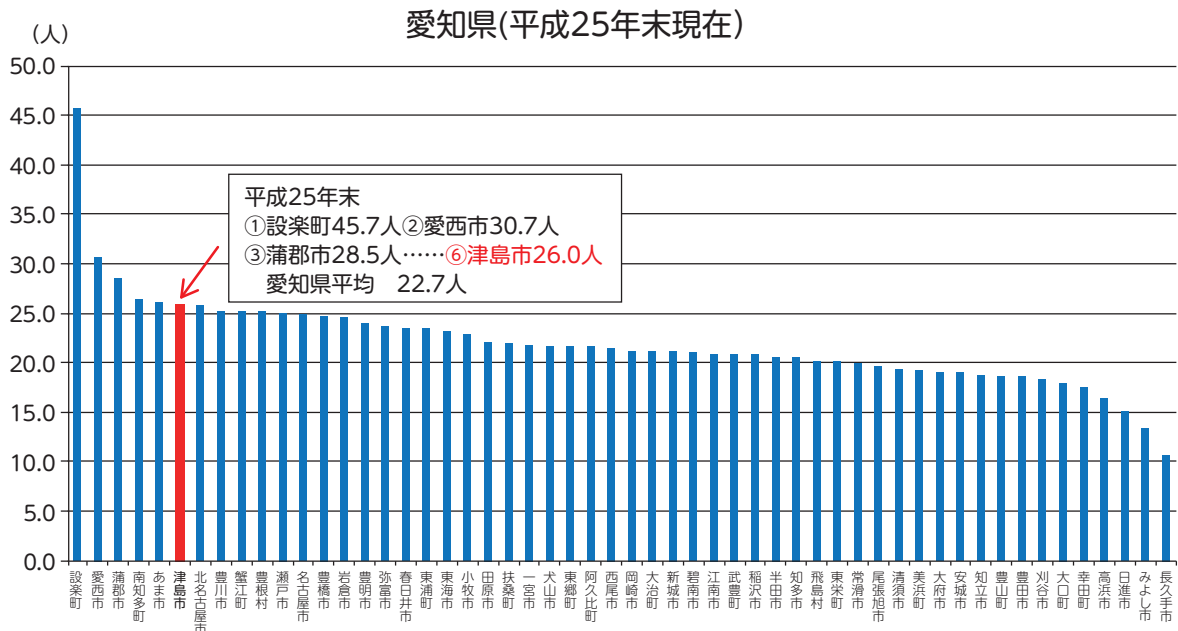
人工透析患者数の推移



愛知腎臓財団より

人工透析患者数は、平成22年までは増加したが、その後減少している。
男性が女性のほぼ2倍である。

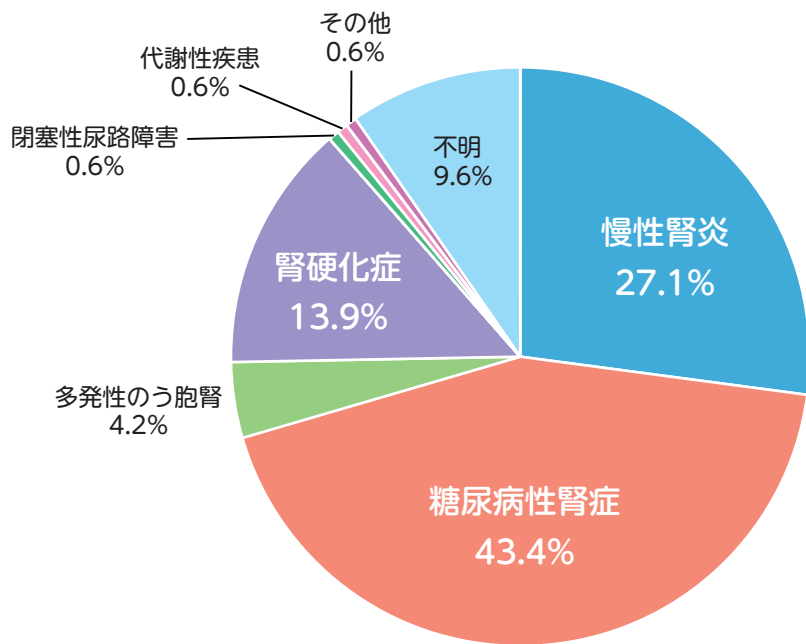
人工透析患者数 地域別 人口1万人対比



愛知腎臓財団より

人工透析患者数 人口1万人対比では、津島市が26.0人で、県内54市町村中、下位6位である。
愛知県の平均22.7人より高い。

人工透析患者の発生原因別疾患（平成 25 年）



糖尿病が原因
で透析になる
人が多いね!!



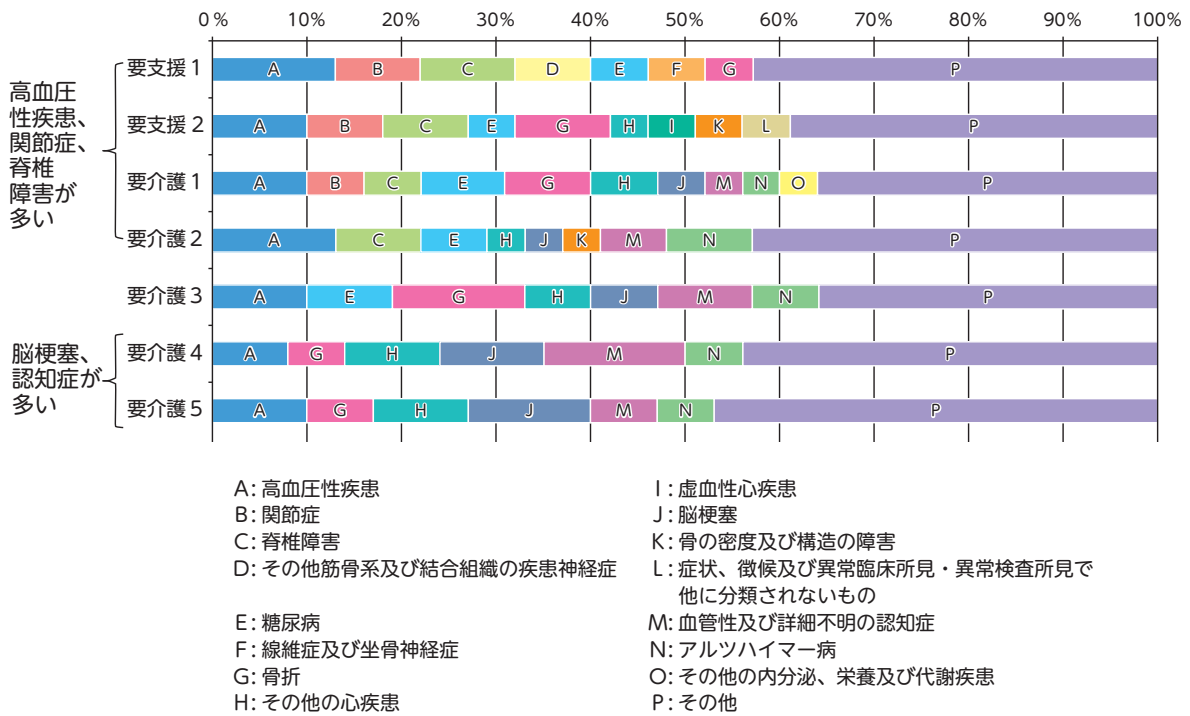
N = 166

資料：愛知腎臓財団より

3. 介護の状況

キーワード：要介護度認定別要因疾病・認知症高齢者の増加

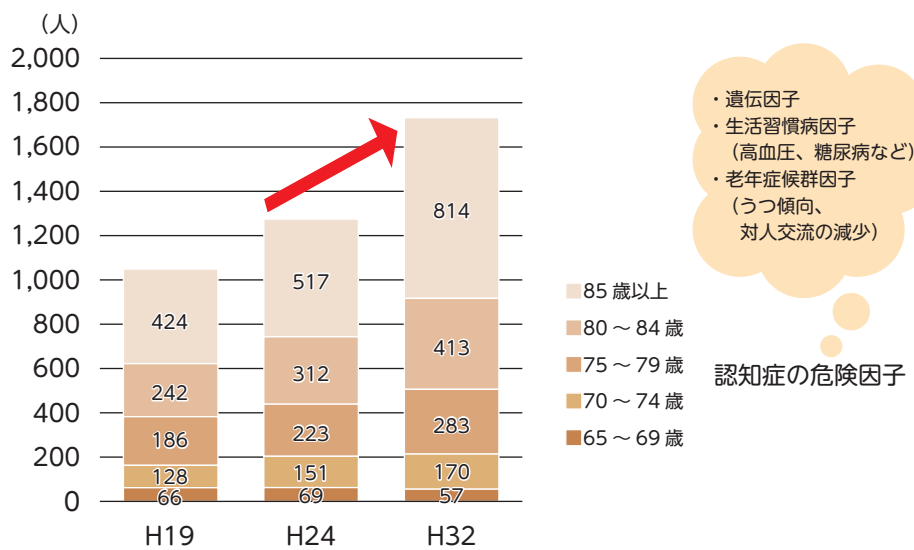
要介護認定別要因疾病（介護度別）



高齢介護課より

要支援～要介護2では、高血圧性疾患、関節症、脊椎障害が多く、要介護4～5では認知症、脳梗塞、アルツハイマーが多い。

認知症高齢者の人口推移



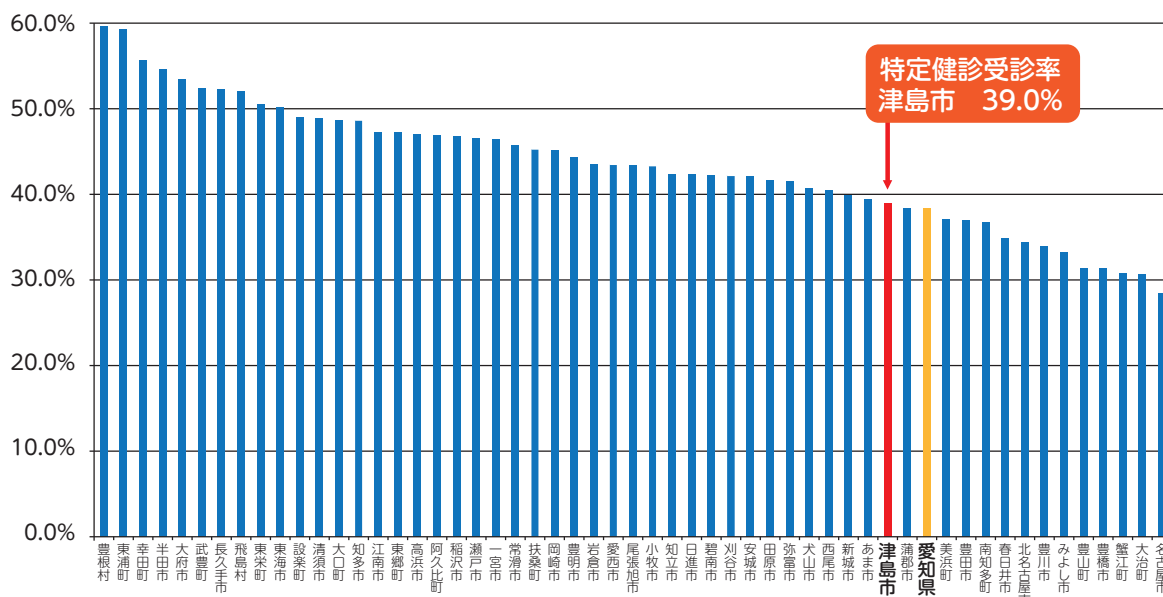
出典：あいち介護予防支援センター HP

認知症高齢者は、増加しており、今後も増加が予想される。

4. 特定健診・がん検診等の状況

キーワード：高いメタボ率
健康に関するボランティアの増加

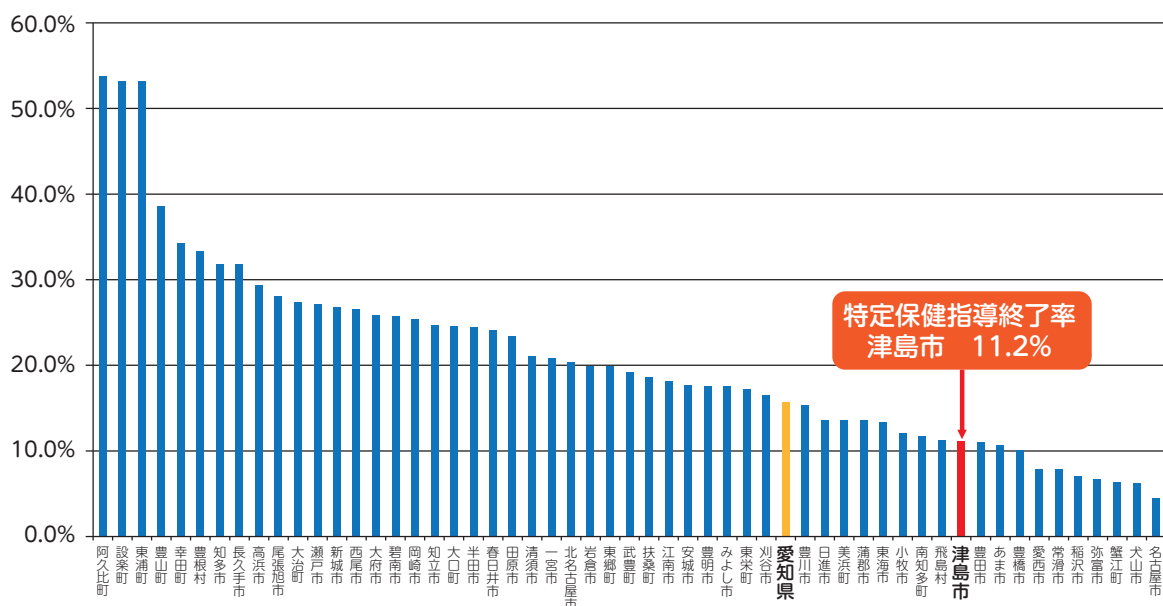
特定健診受診率



出典：平成 27 年度（平成 26 年度分）法定報告

平成26年度の受診率は、39.0%であり、愛知県とほぼ同率である。県内54市町村中、下位14位である。昨年度よりは、改善している。

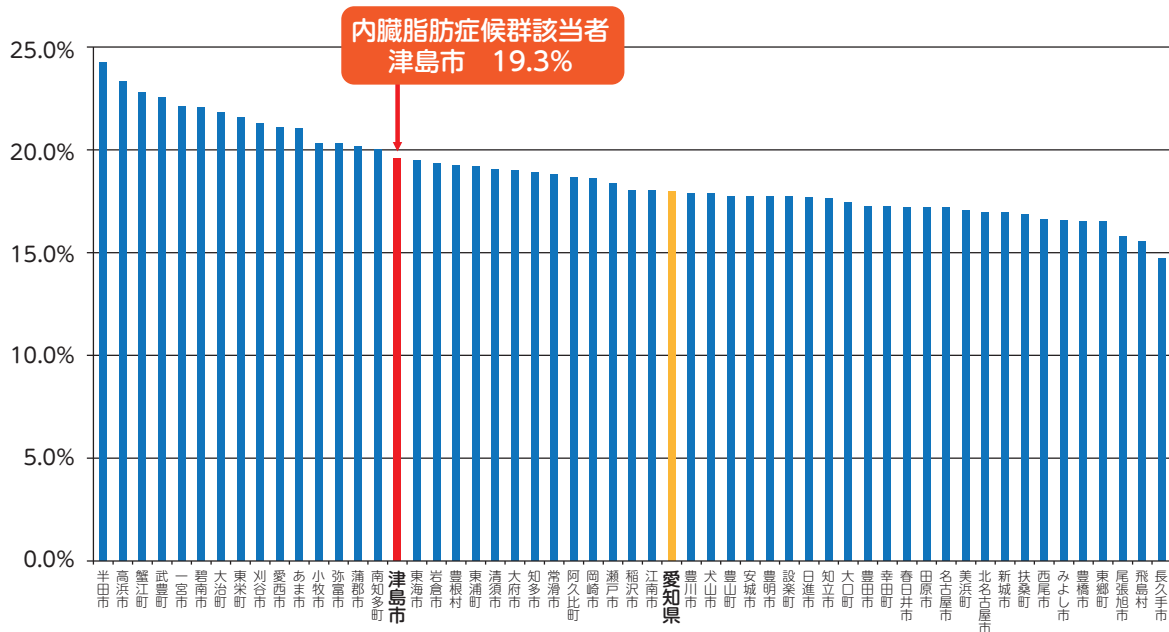
特定保健指導終了率



出典：平成 27 年度（平成 26 年度分）法定報告

特定保健指導終了率は、11.2%であり、愛知県より低率である。県内54市町村中、下位11位である。

内臓脂肪症候群該当者割合

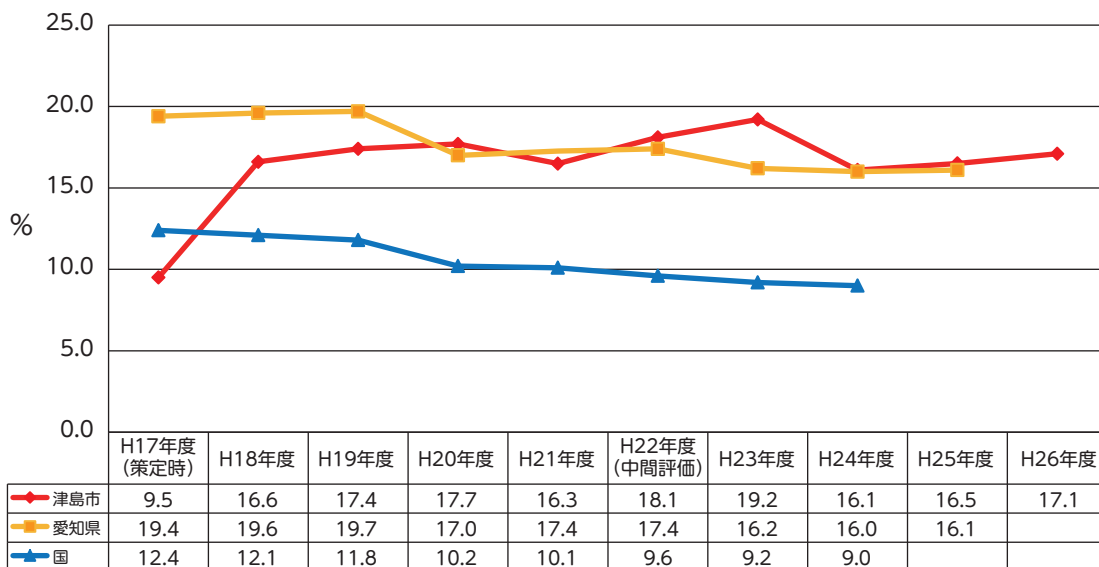


出典：平成 26 年度愛知県国民健康保険団体連合会 特定健康診査等法定報告

内臓脂肪症候群^(※1) 該当者の割合は、19.3%であり、愛知県の18.5%より高い。県内54市町村中、16番目に高い。昨年度は、19.6%であり、昨年度よりは減少している。

がん検診

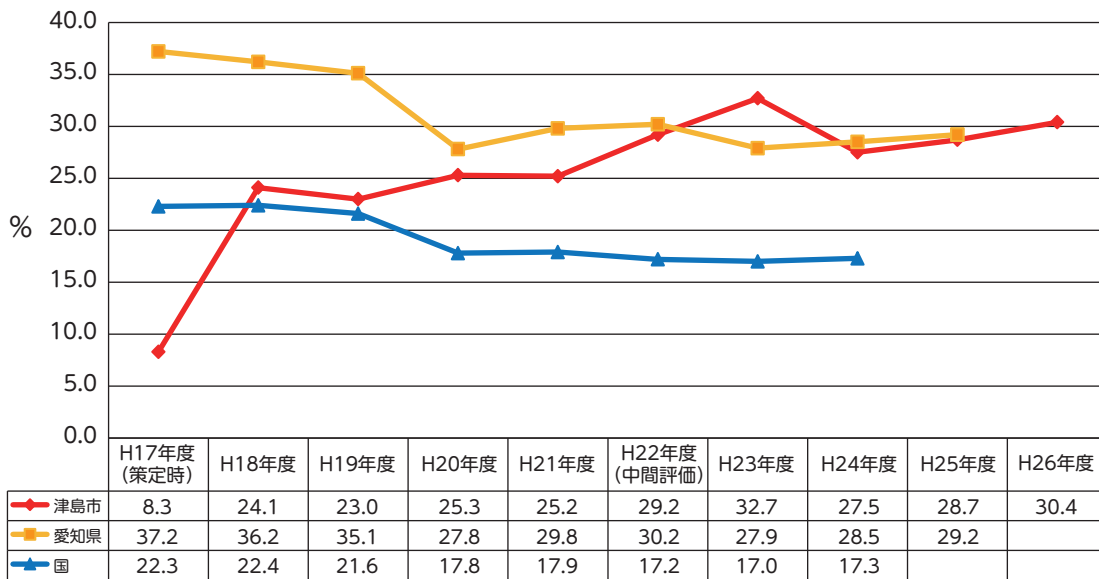
胃がん検診受診率



資料：「愛知県がん検診結果の概要」及び「津島市の保健」より

- 平成22年度から県の受診率より高くなっており、平成26年度は17.1%である。
- 要精検率は、平成22年度から県より低くなっており、平成26年度は7.6%である。
- 精検受診率は、県、国より高く、平成26年度は86.5%である。
- 早期がんが年3-4人、進行がんが年1-3人発見されている。

肺がん検診受診率

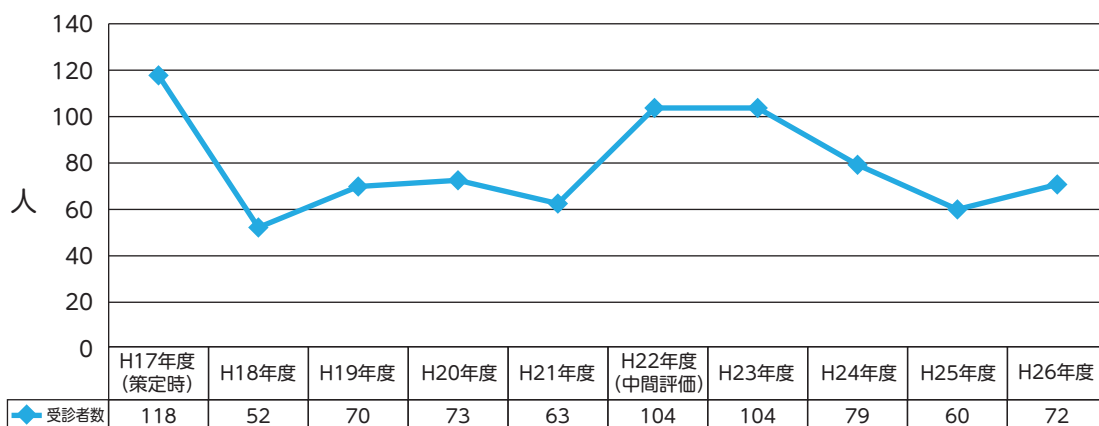


資料：「愛知県がん検診結果の概要」及び「津島市の保健」より

- 受診率が、平成23年度から県と同程度であり、平成26年度は30.4%である。
- 要精検率は、県、国より高く、平成26年度は2.9%である。
- 精検受診率は、県、国より高く、平成26年度は85.4%である。
- 肺がん発見者は、年に0-12人で、平成22年度からの5年で平均年6人発見されている。

- その他のがん検診の平成26年度受診率は、大腸がんが29.6%、乳がんが10.4%、子宮がんが9.6%である。
- 大腸がん、乳がんは、県、国より高いが、子宮がんは、県、国より低い。

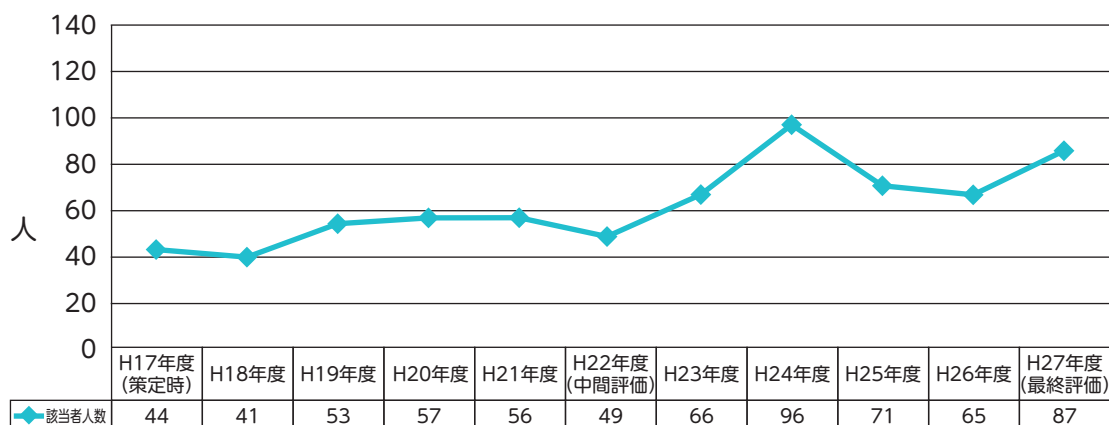
歯科健診受診者数



資料：津島市の保健より

歯科健康診査の受診人数は、平成22、23年度は100人を超えたが、平成26年度は72人となっている。

8020（ハチマルニイマル）該当者数



資料：津島市の保健より

8020該当者数は、40-60人程度であったが、平成27年度は87人であった。

健康づくりに関するボランティア会員数

ボランティア名称	組織の概要	結成年度	会員数 (平成27年 4月1日現在)	主な活動
健康づくり 推進員	健康づくり推進員養成講座を 修了した者で健康づくり活動 が行える者。	平成25年度	29名	からだグループ、こころグループ、 イベントグループに分かれ、ウォー キングイベントの実施や健康まつ り、地域のイベントに参加し、健 康に関する普及啓発活動を行う。
健康づくり リーダー	健康づくりリーダー養成講座 を修了した者で健康づくり活 動が行える者。	平成17年度 (登録年度)	19名 (平成26年度 登録数)	保健センターのウォーキング講座、 健康づくり推進員養成講座などで 運動実習を行う。
食生活改善 推進員	食生活改善推進員養成講座を 修了した者で食生活の改善活 動が行える者。	平成14年度	19名	健康まつり、栄養講座等の保健セ ンターの事業での講話、調理実習 及び、高齢介護課の事業の調理実 習、市内自主グループでの調理実 習、幼稚園、保育所への食育活動 を行う。
糖尿病予防し隊	糖尿病大学の専門コースを修 了した者で糖尿病予防活動が 行える者。	平成25年度	22名	健康まつりや地域のイベントでの 血糖検査の補助及び、糖尿病に関 するアンケートを行い、糖尿病予 防、重症化予防のための普及啓発 活動を行う。
認知症予防 ボランティア	養成講座修了後、市内各地域 で行う認知症予防の事業（高 齢者ふれあいサロン）で認知 症予防のプログラムを実践で きる者。週1回2時間程度の 活動が行える者。	平成20年度	51名	高齢者の地域交流の場の提供、認 知症の早期予防及び健康づくり高 齢者の要支援・要介護状態への悪 化防止を図る。

5. 第2期 健康日本21津島市計画（H28-H37）概念図



▶津島市の現状

地域の背景	医療	介護	健診
<p>進む少子高齢化 高齢化率が、27.1% (H26)、4人に1人が高齢者。20年後には3人に1人が高齢者となる。</p> <p>死亡原因は？ 男性は、脳内出血、肺がんが多い。 女性は、脳内出血が多い。</p>	<p>生活習慣病の医療費が増加 生活習慣病に関する医療費が、60歳代から増加、70歳代でさらに増加する。</p> <p>人工透析患者の割合が高い 人工透析患者の人口1万人対比が、26.0人 (H25) であり、県内 (54市町村) で6番目に高い。開始理由は、糖尿病性腎症が43.4%である。</p>	<p>要介護の理由は？ 要支援～要介護2では、高血圧性疾患、要介護4～5では、認知症、脳梗塞、アルツハイマーが多い。</p> <p>増える認知症 認知症の高齢者は、増加しており、今後とも増加が予想される。</p>	<p>高いメタボ率 メタボ率が19.3% (H26) であり、県内で16番目に高い。特定健診の受診率は、39.0% (H26) であり、年々増加している。保健指導終了率が、県平均より低く、11.2% (H26) であり、県内で下位11位である。</p>

健康に関するボランティアの活動

食生活改善推進員、健康づくり推進員、健康づくりリーダー
糖尿病予防し隊、認知症予防ボランティアなどが活躍中！！

▶第2期計画 重点課題

- 生活習慣病の予防、重症化予防（メタボ、糖尿病、高血圧の予防を中心に！！）
- 赤ちゃんから高齢者まで全ての市民を健康に（こころもからだも元気！！）
- 健康づくりを地域のみならずで支え合う仕組み（健康づくりの輪を広げよう！！）

▶目指すべき姿（10年後）

世代をこえて 笑顔で ^{けんこう}健康 つながる つしま

▶取組の3本柱

- ① つくろうよ ひとりひとりの 健康習慣
- ② しあわせな 笑顔あふれる 仲間づくり
- ③ まちづくり 肝心なのは 市民のWA^わ



第3章 健康づくりの取組

1. つくろうよ ひとりひとりの 健康習慣

～生活習慣病の予防・重症化予防に努めます～

現在の取組

事業（課・関係機関）

健康推進課

- 健康講座
- 栄養相談
- 運動講座
- 糖尿病大学
- 糖尿病予防講座
- がん検診
- ボランティア養成
- 出前講座

高齢介護課

- 介護予防教室
- 出前講座

保険年金課

- 特定健診
- 特定保健指導

地域包括支援センター

- 介護予防講座

市民病院

- 健康講座

保健所

- 出前講座

協会けんぽ

- 特定健診
- 特定保健指導
- 事業所とのコラボヘルス

商工会議所

- 特定健診
- 再検査の勧奨

学校

- 健康診断
- ほけんだより発行

環境整備に関すること

健康推進課

- 保健センターにて健康に関する事業
- 「つし丸ごはん」にてバランス良い食事の普及



5色がそろってからだにいいね!



市民協働の取組

健康づくり推進員

- ウォーキング講座

健康づくりリーダー

- つし丸たいそう・マッキーストレッチの普及
- 運動講座

食生活改善推進員

- 保育所・幼稚園の食育活動
- 料理教室実施
- 料理自主グループの講師
- 栄養講座

市民病院ボランティア

- 保育所の健康教育



関係機関等のコラボ

JA・学校

- 学校教育への地場産農産物食材の提供

学校・健康推進課

- 思春期事業

児童課・健康推進課

- 保育所等での食育

医師会・歯科医師会・薬剤師会・健康推進課・保険年金課・高齢介護課・健康づくり推進員・健康づくりリーダー・食生活改善推進員・介護予防ボランティア等

- 健康まつり

老人クラブ・食生活改善推進員

- 料理教室



保険年金課・健康推進課

- 集団検診(特定健診・がん検診)

生活習慣病予防・重症化予防を達成するために必要なこと

- 健診の受診率アップ
- 病気や健康についての正しい知識
- 運動を取り入れた生活
- 未成年の喫煙防止、禁煙、受動喫煙防止
- かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局
- 人とのつながり
- 健診後のフォロー
- 食事の適量を知る
- 治療の継続
- 良い睡眠



今後の取組

事業（課・関係機関）

短期（1－3年）

- ハイリスク者へのアプローチ

中期（3－5年）

- ハイリスク者へのアプローチの充実

長期（5－10年）

- 若年（40歳未満）のハイリスク者へのアプローチ（事業所との連携）

環境整備に関すること

短期（1－3年）

- 健康づくりに関する講座一覧の作成
- かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局の推奨

中期（3－5年）

- 特定健診・がん検診・歯科健診の受診率アップの体制整備

長期（5－10年）

- 受診から治療まで一貫して支援する体制整備
- 運動する場、講話の場の増加

市民協働の取組

短期（1－3年）

- ボランティアによる健診等受診勧奨、及び講座への受講勧奨

中期（3－5年）

- ボランティアによる市民への普及啓発活動の実施

長期（5－10年）

- ボランティアによる市民への普及啓発活動の充実

関係機関等のコラボ

短期（1－3年）

- 協会けんぽと連携した検診等受診勧奨
- 思春期事業の講師の充実

中期（3－5年）

- コミュニティ等での健康チェックの実施（3師会との連携）

長期（5－10年）

- 家庭単位の健康教育
- かかりつけ医と連携したハイリスク者へのアプローチ

優先課題：自分の身体の状態を知り、健康に対する意識を持つことが大事！！

⇒ 健診受診率向上（特定・がん・歯）

「そうだ！健診に行こう！」

2. **し**あわせな 笑顔あふれる 仲間づくり

～赤ちゃんから高齢者まで、全ての市民の健康づくりに努めます～



現在の取組

事業（課・関係機関）

健康推進課

- HAPPY マタニティ
- 離乳食教室
- 妊産婦歯科健診
- 妊婦・乳児健診
- 思春期教育
- 健康講座
- こころの健康相談
- 訪問指導
- 出前講座
- 健康マイレージ

児童課

- 家庭児童相談
- 保育所の保護者面談
- 子育て支援センター

高齢介護課

- 介護予防教室
- 料理・栄養教室
- 出前講座（認知症）

民間スポーツ施設

- ベビー・幼児・学童の水泳教室
- トレーニングジム・スタジオ・プールレッスン

保健所

- 各種健康相談
- 訪問指導
- 各種疾病の患者・家族の集い

学校

- 総合的なこどもの基礎体力向上大作戦（SKIP）
- 学校での食育
- 放課後子ども教室

環境整備に関すること

児童課

- 子育て支援センター
- 家庭児童相談室

学校・社会教育課

- 学校教育施設の開放

介護予防ボランティア

- ふれあいサロン



はやねちゃん

おそねちゃん

市民協働の取組

健康づくりリーダー

- つし丸たいそう・マッキーストレッチの普及
- 運動講座
- 脳トレ

食生活改善推進員

- 栄養講座、調理実習
- 保育所への食育

主任児童委員

- 赤ちゃん訪問
- 子育てサロン

地域包括支援センター

- 認知症サポーターの養成

あいち健康プラザ

- 健康づくりリーダーの養成



関係機関等のコラボ

児童課・健康推進課

- 保育所等での食育等（食まるファイブ・はやねおそねプロジェクト）

幼稚園・保育所・健康推進課

- こどもはみがき教室

学校・健康推進課

- 思春期事業（歯科・喫煙防止・命の大切さ・生活習慣病予防）

医師会・歯科医師会・薬剤師会・健康推進課・保険年金課・高齢介護課・健康づくり推進員・健康づくりリーダー・食生活改善推進員・介護予防ボランティア等

- 健康まつり

老人クラブ・高齢介護課

- わざ・語り・伝承の館まつり

社会教育課・各種スポーツ団体等

- スポーツフェスティバル

赤ちゃんから高齢者まで、全ての市民の健康づくりを達成するために必要なこと

- 年代に応じた、切れ目ない施策の展開
(乳幼児期、学齢期、20-30歳代、40-50歳代、60-74歳、75歳以上)
- 体だけでなく、こころも健康であること
(趣味・生きがい・つながりのある生活)
- 「食」は、健康の基本(よく噛んで食べる習慣、朝ごはん、8020運動)
- 健康づくり 長続きの秘訣は、誰かと一緒に取り組むこと



今後の取組

事業 (課・関係機関)

短期 (1-3年)

- 乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の各世代に応じた健康施策の立案・実施

中期 (3-5年)

- 成人期、特に働く世代へのアプローチ

長期 (5-10年)

- 乳幼児期から高齢期まで切れ目ない施策の展開

環境整備に関すること

短期 (1-3年)

- 世代間交流を通じた健康づくりを実施する場の確保及びモデル事業の実施

中期 (3-5年)

- 世代間交流の場において「健康の大切さを発信」する仕組みづくり

長期 (5-10年)

- 地区ごとに、世代間交流の場が確保でき健康づくりに関する施策が充実

市民協働の取組

短期 (1-3年)

- ボランティアによるつし丸たいそう等の普及、市民編による健康チェックの実施(学校)

中期 (3-5年)

- ボランティアによるつし丸たいそう等の普及、市民編による健康チェックの実施(事業所)

長期 (5-10年)

- ボランティアによるつし丸たいそう等の普及、市民編による健康チェックの実施(地域・家庭)

関係機関等のコラボ

短期 (1-3年)

- 商工会議所、協会けんぽ等、事業所単位での健康マイレージへの参加の促進

中期 (3-5年)

- 商工会議所、協会けんぽ等、事業所単位での健康講座の実施(ボランティアと協力)

長期 (5-10年)

- トレーニングジム、スイミングスクール等関係機関での市の健康施策の実施

優先課題：人との交流はこころの健康につながる！！
交流の場は、健康の情報交換の場になる！！
世代を超えた交流で、地域の健康度を向上させる！！

⇒ **世代間交流の場の確保**

「世代を超えて気軽に集まれる場所・交流や相談ができる場所を身近に」

3. まちづくり 肝心なのは 市民の WA^わ

～健康づくりを地域みんなで支え合う仕組みづくりに努めます～

現在の取組

事業（課・関係機関）

健康推進課

- 健康づくりボランティアの養成、活動支援
- 運動自主グループの発足と活動支援

高齢介護課

- 高齢者地域見守り推進事業

保健所

- 地域職域連携推進事業

社会福祉協議会

- 地域での支え合い活動支援
- ボランティア活動の相談や情報提供、活動者の養成

商工会議所

- 健診結果に対する運動勧奨等の指導

地域包括支援センター

- 住民主体の高齢者サロンの活動支援

環境整備に関すること

健康推進課

- つし丸ごはん

計画建築課

- 公園への高齢者向け健康器具の設置



市民協働の取組

元気でいよう会

- ウォーキングイベント講座
- 練功

産業振興課

- 市民農園



関係機関等のコラボ

元気でいよう会・コミュニティ等

- コミュニティでの出前健康教室
- 市の事業や、地域の行事での健康ブースの開催

地域包括支援センター・老人クラブ等

- 老人クラブの行事や、高齢者ふれあいサロンでの健康教育

社会福祉協議会・各種団体等

- 福祉に関する講話・出前講座

健康づくりを地域みんなで支え合う仕組みづくりを達成するために必要なこと

- ご近所、友人同士の支え合いや声掛け
- 健康づくりに関する市民団体への活動支援と取組の拡充
- 市民、関係機関、行政とのコラボレーション
- 身近な場所で、誰もが出かけたいくなるような魅力的な催しの開催
- 健康に関心のない市民も、健康づくりに取り組めるような環境づくり



今後の取組

事業（課・関係機関）

短期（1－3年）

- 健康づくりボランティア等の養成による増員

中期（3－5年）

- 健康づくりボランティア等の養成と地区単位化に向けた活動支援

長期（5－10年）

- 健康づくりボランティア等の地区単位化

環境整備に関すること

短期（1－3年）

- ウォーキング用に距離がわかる表示板等の設置

中期（3－5年）

- 健康遊具の充実

長期（5－10年）

- 安全にウォーキングできる環境の整備

市民協働の取組

短期（1－3年）

- 市民団体、ボランティア間の連携拡充

中期（3－5年）

- ウォーキングコースのマップ作成

長期（5－10年）

- 市民団体の活動の拡充及び地区単位化

関係機関等のコラボ

短期（1－3年）

- 関係機関の協力による出前講座の充実

中期（3－5年）

- 地域の行事での健康普及活動の実施

長期（5－10年）

- 地域の行事での健康普及活動の充実
- 自分に合う健康教室を見つけることのできるネットワークづくり

優先課題：市民の健康意識に、差がある！！


地域ぐるみで健康に関心を高めていく仕組みづくりが必要！！

⇒ **地域とのコラボレーション**

「健康を通じて、住民に身近な『コミュニティ』のイベントに協力しよう」

「第2期 健康日本21津島市計画」ワーキングのまとめ

平成27年10月、11月 ワーキングにて検討

<p>目指すべき姿 (10年後) 平成37年</p>	<p>世代をこえて 笑顔で 健康で つながる つしま</p> <p>自分たちが、すぐに取り組めることは、何だろうか？！</p> 				<p>具体的な取組内容でコラボできないことはないか？ 自分たちの所属でできることはなにか？</p>
<p>第2期計画重点課題</p>	<p>生活習慣病の予防、重症化予防 (メタボ、糖尿病、高血圧の予防を中心に!!)</p>	<p>すべての年代を健康に (こころもからだも元気!!)</p>	<p>地域のみんなを支える健康づくり (健康づくりの輪を広げよう!!)</p>	<p>(保健所) 健診受診率の向上についてちらしと啓発、コミュニティのイベントへの参加。</p>	
<p>取組の3本柱</p>	<p>くろうよ ひとりひとりの健康習慣</p>	<p>あわせな 笑顔あふれる 仲間づくり</p>	<p>ちづくり 肝心なのは 市民のWA</p>	<p>(子育て支援センター) 子育て支援センターのイベントに参加する人への健診の受診勧奨。</p>	
<p>取組の優先課題</p>	<p>「健診受診率の向上」</p>	<p>「世代間交流の場の確保」</p>	<p>「地域とのコラボ」</p>	<p>(小・中学校) ポスター掲示して健診啓発を親へ周知。</p>	
<p>具体的な取組内容 目的・ねらい</p>	<p>多くの人に各自の状況を知ってもらえ、市民が健康に対する意識をもってもらえ、コミュニティ、地域清掃、総会、運動会、イベントなど</p>	<p>気軽に集まれ、行きたいときに行ける、憩いの場、交流や相談もできる、場所の確保</p>	<p>地域の行事が盛り上がり、参加者が増えることで、みんなで健康になる</p>	<p>(包括支援センター) 健診についての相談・助言。公民館等で健康応援交流会の実施。配食ボランティアへの研修、相談。</p>	
<p>いつ</p>	<p>包括支援センター、子育て支援センター、学校、老人クラブ、商工会議所、スポーツ施設、JA、ボランティア活動の場、地域の行事の場など</p>	<p>「1~2回/年開催」から「常時(最終的に)」</p>	<p>地域の行事の場 (集会所、コミュニティセンター、小学校など)</p>	<p>(健康推進課) 保健師が校区担当制なので、コミュニティへの積極的な健診啓発。健康まつりやイベントで校区別健診受診率を掲示し啓発。</p>	
<p>どこで</p>	<p>市民、ボランティア、行政、関係機関、コミュニティ</p>	<p>ボランティア、行政 (コーディネート役)</p>	<p>ボランティア、関係機関、行政</p>	<p>(児童課) 赤ちゃん訪問時に、出産を期に自分の身体を見直す啓発。</p>	
<p>誰が</p>	<p>健診の受診勧奨</p>	<p>世代間の交流</p>	<p>それぞれの団体が協力できる催しや情報提供を行う</p>	<p>(協会けんぽ) 学校にポスターコンクールをして、啓発。健康経営の考え方で、データを返し直接的なアプローチ。</p>	
<p>何を</p>	<p>地区別受診率の提示 (市のホームページの掲載、コミュニティ総会で示す)、初回健診受診者に対するサービス制度、健診時間の調整 (早朝、延長時間の実施)、受診者が少ない月のサービス制度の実施、コミュニティ団体、イベント時に健診の啓発を実施、団体が受けるメリット (割引など)</p>	<p>高齢者が先生となり、子どもにも遊びを教えたり等、子どもへ子育て世代へ高齢者間で交流。 ●運動 (スポーツを始めるきっかけ作り)、食事 (栄養・噛むこと等歯科)、健診受診等、健康の大切さについて発信</p>	<p>地域の行事の際にボランティア、関係機関、行政が協力できる内容を盛り込む</p>	<p>今後取り組みそうなこと ●働く世代の男性へのアプローチ →協会けんぽ、被保険者の扶養者へのアプローチ→市町村が実施。年齢によってアプローチしやすい部署があるので連携していけると良い。 ●それぞれで活動の場があるので、ちらし等の物による啓発はしやすいのではないかと。</p>	
<p>どのように</p>	<p>健診未受診者 (特に被扶養者)、若い世代</p>	<p>子どもから高齢者</p>	<p>子どもから高齢者</p>	<p>子どもから高齢者</p>	
<p>対象者は？</p>	<p>健診未受診者 (特に被扶養者)、若い世代</p>	<p>子どもから高齢者</p>	<p>子どもから高齢者</p>	<p>子どもから高齢者</p>	
<p>事業の評価項目</p>	<p>健診受診率、医療費</p>	<p>交流事業数、内容の広がり、年代別参加者数</p>	<p>コラボした地域の数や内容、地域行事参加者数</p>	<p>子どもから高齢者</p>	
<p>短期 (1-3年) でどこまでですか？</p>	<p>各場所やイベント等でチラシ啓発 「そつだ！健診に行こう！」の標語や地区別受診率を掲示・啓発、井戸端会議</p>	<p>世代間交流事業を把握し、内容充実に向けて検討を重ね、モデル的に開催する</p>	<p>地域とのコラボの活性化に向けた検討や地域への働きかけ</p>	<p>子どもから高齢者</p>	
<p>中期 (3-5年) でどこまでですか？</p>	<p>啓発場所の拡大、受診率向上の仕組み作り</p>	<p>世代間交流事業における、「健康の大切さの発信」の仕組み作り</p>	<p>コラボできる地域の増加</p>	<p>子どもから高齢者</p>	
<p>長期 (5-10年) でどこまでですか？</p>	<p>子どもを含めた家族への教育・啓発等、他機関と連携した仕組みを検討</p>	<p>「世代間交流」が地区単位で開催される</p>	<p>コラボできる地域が市内全域に広がる</p>	<p>子どもから高齢者</p>	

第4章 計画の策定経過と進捗管理

1. 第2期 健康日本21津島市計画の策定経過

2014年度

あいち健康の森健康科学総合センター「市町村健康づくり技術支援事業」を活用し、既存データを活用した健康課題の明確化を検討。

2015年度

あいち健康の森健康科学総合センターの策定支援を受け、「第2期 健康日本21津島市計画」の策定を実施。

策定の日程

- ◆平成27年7月7日（火）
- ◆講演会：「健康長寿のまち・津島市をめざして」
講 師：あいち健康の森健康科学総合センター
津下 一代 センター長



◆策定委員会 全3回

日 時	内 容
平成27年 6月23日（火）	<ul style="list-style-type: none">●第1期 健康日本21津島市計画まとめ●第2期 健康日本21津島市計画策定スケジュール、進め方について ワーキングと合同
平成27年11月24日（火）	<ul style="list-style-type: none">●全体発表 「施策編 津島市 健康づくり10年戦略」 「市民編 第2期健康日本21計画」 ワーキングと合同
平成27年12月15日（火）	<ul style="list-style-type: none">●新計画書（案）の説明、質疑応答




◆ワーキング 全11回

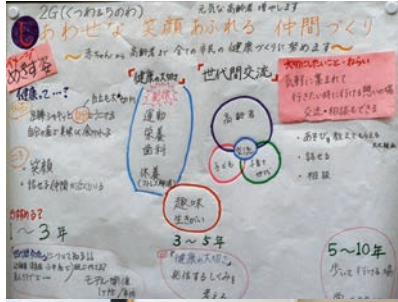

	日 時	内 容
1	平成27年 6月23日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ●第1期 健康日本21津島市計画まとめ ●第2期 健康日本21津島市計画策定スケジュール、進め方について 策定委員会と合同
2	平成27年 7月 7日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ●講演会「健康長寿のまち・津島市をめざして」 策定委員会と合同
3	平成27年 8月18日 (火) 	<ul style="list-style-type: none"> ●グループワーク 「津島市の健康状態について感じること」 <ul style="list-style-type: none"> ●実現可能な計画にしたい。(行政職員) ●他の機関の方と連携した活動をしてみたい。(関係機関) ●自分の特技を活かせる活動ができたと思います。(市民代表)
4	平成27年 9月15日 (火) 	<ul style="list-style-type: none"> ●グループワーク 「実現可能な健康への取組」 <p>各々が所属しているところでの事業を見直し、連携できるところや工夫できるところを考え、意見を出し合いました。</p>
5	平成27年10月13日 (火) 	<ul style="list-style-type: none"> ●グループワーク 「津島市 健康づくり 10年戦略」 <p>各グループで考えた内容を「実現可能性」と「有効性」に分けて、重点的に取り組む内容を考えました。他のグループの取組の考えを聞きながら、自分のグループの考えを、より深めることができました。</p>
6	平成27年10月28日 (水) 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民編の検討 「各グループの取組課題の検討」 <p>グループメンバーの親睦を深め、計画の話を進めていきました。</p>
7	平成27年11月10日 (火)  市民代表グループ 関係機関グループ	<ul style="list-style-type: none"> ●市民編の検討 「地域と職域との連携について」 <p>津島保健所と協会けんぽの方より、働く世代の健康づくりについてお話を聞きました。その後、市民代表グループと関係機関グループに分かれて話し合いを行いました。</p>

	日 時	内 容
8	平成27年11月17日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ●市民編の検討 「市民編の検討、完成」 「全体発表準備」
9	平成27年11月24日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ●全体発表 「津島市 健康づくり 10年戦略」 「市民編 第2期健康日本21計画」 策定委員会と合同 <p>各グループの個性が光る発表でした。</p>
10	平成28年 2月23日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ●完成報告会 策定委員会と合同
11	平成28年 3月15日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ●推進に向けての検討会


1 G : 生活習慣病予防

2 G : すべての年代の健康づくり

3 G : 地域で支える健康づくり

◆パブリックコメント

平成28年1月4日から22日までの期間に実施。

2. 計画の進捗管理

- ◆第2期 健康日本21津島市計画に基づく、取組の実施（毎年度）
- ◆推進部会による取組の進捗管理（毎年度）
- ◆評価指標に基づくデータの分析・評価（毎年度）
- ◆中間評価（平成32年度）
- ◆最終評価（平成37年度）

3. 評価指標と目標値

評価指標

	項目	校区別	出典
①人口統計・死亡割合	人口割合の推移		あいちの人口
	年齢別人口推移		企画政策課
	高齢化率推移	○	企画政策課
	年齢別死者数		愛知県衛生年報
	性年齢別死因件数		厚生労働省 人口動態 定期的提供
	標準化死亡比 (SMR)		愛知県衛生研究所
	自殺者数		愛知県衛生年報
②平均寿命・健康寿命	平均寿命		KDB (地域の全体像の把握)
	健康寿命		KDB (地域の全体像の把握)
③医療	被保険者数の推移		国民健康保険事業年報
	費用額の推移		国民健康保険事業年報
	国保1人当たりの医療費		国民健康保険事業年報
	国保加入率		国民健康保険事業年報
	後期高齢者 被保険者数		国民健康保険事業年報
	後期高齢者 医療費		国民健康保険事業年報
	後期高齢者 1人当たり医療費		国民健康保険事業年報
	国保医療費 入院		AI Cube 3-01 年齢階級別入院医療費の状況
	国保医療費 外来		AI Cube 3-02 年齢階級別外来医療費の状況
④疾病	糖尿病保有者数年度推移		AI Cube 2-09 男女別生活習慣病ごとの保有者数年度推移
	糖尿病保有者数年度推移 (女性)		AI Cube 2-10 年齢階級別生活習慣病毎の保有者率年度推移
	糖尿病保有者数年度推移 (男性)		AI Cube 2-10 年齢階級別生活習慣病毎の保有者率年度推移
	人工透析患者数の推移		愛知腎臓財団
	人工透析患者 地域別 人口1万人対比		愛知腎臓財団
	人工透析における糖尿病腎症の割合		愛知腎臓財団
	発生原因別疾患		愛知腎臓財団
	人工透析開始年齢		愛知腎臓財団
⑤介護	高齢者世帯率	○	高齢介護課
	高齢者の独り世帯率	○	高齢介護課
	要介護認定別要因疾病 (介護度別)		高齢介護課
	65歳以上人口割合ランキング		あいち介護予防支援センターホームページ
	75歳以上人口割合ランキング		あいち介護予防支援センターホームページ
	要介護認定者の推移		あいち介護予防支援センターホームページ
	65歳以上要介護認定率		あいち介護予防支援センターホームページ
	75歳以上要介護認定率		あいち介護予防支援センターホームページ
	一人当たり介護給付費		あいち介護予防支援センターホームページ
	介護保険料基準額の状況		あいち介護予防支援センターホームページ
⑥健診	特定健診受診率	○	特定健診・特定保健指導実施結果報告
	メタボ予備群・該当者率		特定健診・特定保健指導実施結果報告
	糖尿病治療者数		特定健診・特定保健指導実施結果報告
	特定健診受診率ランキング		国保連合会 特定健診等法定報告
	特定健診保健指導終了率ランキング		国保連合会 特定健診等法定報告
	メタボ割合 県内ランキング		国保連合会 特定健診等法定報告
⑦生活習慣	喫煙者の状況		健康日本21 あいち新計画「資料編」
	運動習慣者の状況		健康日本21 あいち新計画「資料編」
	身体活動の状況		健康日本21 あいち新計画「資料編」
	朝食の欠食状況		健康日本21 あいち新計画「資料編」
	飲酒者の状況		健康日本21 あいち新計画「資料編」
	睡眠による休養がとれている者の状況		健康日本21 あいち新計画「資料編」
	健康に関する意識の状況		健康日本21 あいち新計画「資料編」
⑧がん検診	胃がん検診		愛知県HP、津島市の保健
	肺がん検診		愛知県HP、津島市の保健
	大腸がん検診		愛知県HP、津島市の保健
	その他がん検診		愛知県HP、津島市の保健
⑨歯科健診	受診者数		津島市の保健
	8020 該当者数		津島市の保健
⑩健康づくりに関連するボランティア	食生活改善推進員		津島市の保健
	健康づくりリーダー		津島市の保健
	健康づくり推進員		津島市の保健
	糖尿病予防し隊		津島市の保健
	認知症予防ボランティア		高齢介護課

目標値（平成32年・37年）及び現状値

項目	細目	対象	出典	単位	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年 (現状)	平成32年 (中間評価)	平成37年 (最終評価)
健康寿命の延伸		男性	KDB	歳				65.5			健康寿命の増加 分を上回る健康 寿命の増加	
		女性						67.4				
がん検診の 受診率の向上	胃がん		津島の保健	%	18.1	19.2	16.1	16.5	17.1		30	40
	肺がん				29.2	32.7	27.5	28.7	30.4		40	50
	大腸がん				27.3	32.5	26.7	27.9	29.6		40	50
	子宮頸がん				15.9	15.0	17.5	8.9	9.6		20	30
	乳がん				15.1	9.5	8.3	8.2	10.4		20	30
メタボ該当者の 減少		40-74歳	特定健診・ 特定保健指導 実施結果報告	%	20.3	20.7	21.6	19.6	19.3		減少	減少
メタボ予備群の 減少		40-74歳		%	9.9	9.2	8.9	10.0	11.0		減少	減少
特定健診の 実施率の向上		40-74歳		%	33.4	33.9	35.4	37.8	38.5		60	上昇
特定保健指導の 実施率の向上		40-74歳		%	11.3	8.3	13.4	6.1	11.2		上昇	上昇
人工透析新規導入 患者数の増加の抑制			愛知腎臓財団	人	21	17	15	10			横ばい	横ばい
人工透析新規導入 患者数(糖尿病性 腎症による)の減少				人	4	7	6	5			減少	減少
人工透析患者 人口1万人対比				人	27.8	27.4	26.4	26.0			県と同等	県と同等
糖尿病保有者数の 増加の抑制		男性	AI Cube	人	877	959	1,096	1,105	1,159		横ばい	横ばい
		女性			970	998	1,030	1,028	1,106		横ばい	横ばい
自殺者の減少 (人口10万人当たり)			愛知県 衛生年報	人	18.4	16.9	9.3	26.6			県と同等	県と同等
健康づくりに関する ボランティア会 員数の増加	食生活改善推進員		津島の保健	人	23	20	19	18	15	19	30	40
	健康づくりリーダー							19	21	30	40	
	元気でいよう会							29	29	60	90	
	糖尿病予防し隊							20	22	45	70	
	認知症予防		高齢介護課					51	60	75	90	
運動習慣 (居住地ごと)		男性	健康日本21 あいち新計画 「資料編」	%	30.3	31.5					35.0	40.0
		女性			29.3	29.4						30.0
身体活動 (居住地ごと)		男性	健康日本21 あいち新計画 「資料編」	%	38.2	38.5					40.0	45.0
		女性			42.4	43.4						45.0
朝食欠食 (居住地ごと)		男性	健康日本21 あいち新計画 「資料編」	%	13.1	13.3					15.0	20.0
		女性			6.3	6.5						10.0
飲酒者 (居住地ごと)		男性	健康日本21 あいち新計画 「資料編」	%	65.4	65.9					60.0	55.0
		女性			31.7	32.1						30.0
睡眠 (居住地ごと)		男性	健康日本21 あいち新計画 「資料編」	%	69.7	68.1					70.0	75.0
		女性			69.3	70.4						75.0
健康意識 (居住地ごと)		男性	健康日本21 あいち新計画 「資料編」	%	64.1	63.3					65.0	70.0
		女性			69.9	69.4						70.0
喫煙率 (居住地ごと)		男性	健康日本21 あいち新計画 「資料編」	%	37.5	35.1					30.0	25.0
		女性			8.0	7.7						7.0
8020該当者数の 増加			津島の保健	人	49	66	96	71	65	87	増加	増加
歯科健診の受診者 の増加				人	104	104	79	60	72		増加	増加
3歳児で齲蝕がな い者の割合の増加			健康かるて	%	85.7	87.1	89.7	84.7	90.6		93.0	95.0

国 健康日本 21 (第二次) 分析評価項目

第5章 資料編

1. 現在の主な取組実績

現在の主な取組実績（平成26年度）

取組の3本柱	事業名	担当課	対象	実施回数(回)	延べ参加者数(人)
生活習慣病予防	健康講座	健康推進課	市民	3	146
	栄養講座		市民	3	74
	運動講座		40-64歳	23	413
	糖尿病大学		市民	18	116
	糖尿病予防講座		40-64歳	8	158
	出前講座		市民	28	1,327
	健康相談		市民	38	108
	介護予防教室	高齢介護課	65歳以上	-	5,140
全ての年代の健康づくり	妊娠期の教室	健康推進課	妊婦とその家族	12	139
	離乳食教室		乳幼児の保護者	12	153
	こども歯みがき教室		保育所、幼稚園の園児	16	1,009
	思春期教育		小中学校生徒	20	1,854
	こころの健康相談		市民	84	84
	こころの健康づくり講座		市民	6	126
	訪問指導		40-64歳	84	84
	料理・栄養講座	高齢介護課	65歳以上	3	70
	家庭児童相談	児童課	18歳未満の子の保護者	-	1,500
	保育所の保護者面談		就園児の保護者	24	-
地域で支える健康づくり	ボランティア養成	健康推進課	40-64歳	15	154
	ボランティア活動支援		市民	77	-

健康推進課の実績（津島市の保健 平成26年度より）
他課の実績（事業進捗状況調査より）

2. 用語の解説

(※1) 内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム・メタボ）

内臓脂肪の蓄積によって、動脈硬化の危険因子である肥満と高血圧、糖尿病、脂質異常症などの疾患を重複して発症している状態。

(※2) 特定健診（特定健康診査）

メタボリックシンドロームに着目した検査項目（身長、体重、BMI、血圧、肝機能、血中脂質検査、血糖検査、尿検査）での健康診査。

(※3) 特定保健指導

特定健診の結果から、生活習慣病の発症リスクが高い方に対して、医師や保健師や管理栄養士等が対象者の身体状況に合わせた生活習慣を見直すためのサポートをします。特定保健指導には、リスクの程度に応じて、動機付け支援と積極的支援があります。

特定保健指導の対象者（階層化）

腹 囲	追加リスク		④喫煙者	対 象	
	①血糖	②脂質		③血圧	40-64 歳
≥ 85cm (男性)	2つ以上該当		/	積極的支援	動機付け支援
≥ 90cm (女性)	1つ該当		あり なし		
上記以外で BMI ≥ 25	3つ該当		/	積極的支援	動機付け支援
	2つ該当		あり なし		
	1つ該当		/		

(注) 喫煙歴の斜線欄は、階層化の判定が喫煙歴の有無に関係ないことを意味する。

(※4) 保健指導終了率

動機付け支援・積極的支援のいずれの場合でも、初めの面接から6ヶ月経過後に、行動変容の状況等の終了時評価を実施し、完了となる。特定保健指導実施者のうち、特定保健指導の終了した者の割合。

(※5) 標準化死亡比

基準死亡率（人口10万対の死亡数）を対象地域に当てはめた場合に、計算より求められる期待される死亡数と実際に観察された死亡数とを比較するもの。全国平均を100としており、標準化死亡比が100以上の場合は全国の平均より死亡率が多いと判断され、100以下の場合は死亡率が低いと判断される。

(※6) ハイリスクアプローチ

健康障害を引き起こす危険因子をもつ集団のうち、危険度がより高い者に対して、その危険度を下げよう働きかけをして病気を予防する方法。

(※7) ポピュレーションアプローチ

集団全体に対して働きかけ、環境整備等を行い、適切な方向にシフトする方法。

3. 第2期 健康日本21津島市計画策定委員等名簿

◆策定委員

委 員	氏 名
津島市医師会会長	河 西 あつ子
津島市歯科医師会会長	平 野 真 英
津島市薬剤師会会長	浅 井 敦 子
愛知県津島保健所所長	増 井 恒 夫
津島市教育委員会教育長	武 藤 育 雄
津島市社会福祉協議会会長	堀 田 勝
津島市民生児童委員連絡協議会会長	殿 畑 規 子
津島市老人クラブ連合会会長	櫻 木 忠 夫
津島商工会議所代表	伊 藤 大 造
東小学校区コミュニティ推進協議会会長	大 鹿 善 之

◆ワーキングメンバー

所 属	氏 名
健康づくり推進員	星 野 和 平
食生活改善推進員	森 島 昌 子
健康づくりリーダー	鶴 見 よし子
糖尿病予防し隊	熊 谷 喜久子
運動自主グループ	稲 垣 治 二
介護予防ボランティア	野 田 郁 子
東小学校区コミュニティ推進協議会	大 鹿 善 之
主任児童委員	垣 見 圭 子
主任児童委員	加 藤 由 佳
津島保健所	古 橋 完 美
津島市社会福祉協議会	秀 徳 淳 子
地域包括支援センター 北「さくら」	前 田 悦 美
地域包括支援センター 中「おあしす」	富 山 早 苗
地域包括支援センター 南「いきいき」	久 山 祐 子
津島商工会議所	浄 閑 恵利子
協会けんぽ 愛知支部	市 本 恵 三
あいち海部農業協同組合	加 藤 直
スポーツ施設 サンガーデン	橋 本 和 幸
養護教諭（天王中学校）	佐 藤 和佳奈
栄養教諭（暁学校給食共同調理場）	本 間 美 冴

◆行政職員

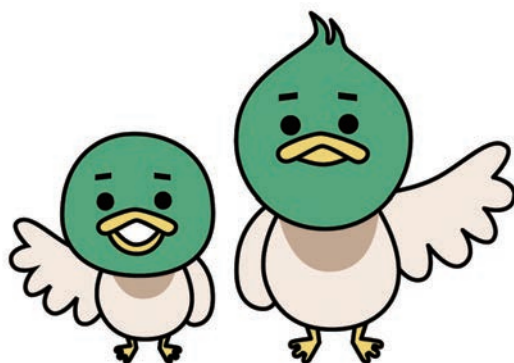
所 属	グ ル ー プ	氏 名
市長公室企画政策課	行政経営グループ	鈴木 亮 仁
市長公室人事秘書課	人事グループ	永 田 直 樹
総務部財政課	財政グループ	星 野 弘 幸
市民協働部地域・安全課	地域コミュニティグループ	神 守 裕 子
生活産業部産業振興課	農政グループ	河 原 健 司
健康福祉部福祉課	福祉グループ	平 野 美 香
健康福祉部高齢介護課	長寿福祉グループ	山 田 裕美子
健康福祉部児童課	児童・保育グループ	杉 本 里 美
健康福祉部児童課	西地区子育て支援センター	竹 内 あけみ
健康福祉部保険年金課	国民健康保険グループ	土 田 ひろみ
建設部計画建築課	都市計画・建築グループ	瀧 川 悟 史
教育委員会学校教育課	学校教育グループ	榊 原 靖 浩
教育委員会社会教育課	スポーツ振興グループ	鈴 木 悠 也
健康福祉部健康推進課	母子保健グループ	松 尾 く み
健康福祉部健康推進課	成人保健グループ	佐 藤 知 子
健康福祉部健康推進課	成人保健グループ	桑 原 陽 香
健康福祉部健康推進課	成人保健グループ	佐 藤 衣 理
健康福祉部健康推進課	成人保健グループ	中 嶋 咲 喜

◆事務局

所 属	グ ル ー プ	職	氏 名
健康福祉部		部長	淵 上 晴 弘
健康福祉部健康推進課		課長	橋 本 薫
健康福祉部健康推進課	成人保健グループ	統括主任	南 出 孝 次
健康福祉部健康推進課	成人保健グループ	副主任保健師	上 野 真紀代

◆策定支援

所 属	職	氏 名
あいち健康の森健康科学総合センター	センター長	津 下 一 代
あいち健康の森健康科学総合センター	主任専門員	松 下 まどか
あいち健康の森健康科学総合センター	主査	尾 関 拓 也
あいち健康の森健康科学総合センター	技師	山 下 恵
あいち健康の森健康科学総合センター	主事	田 村 翠



第2期 健康日本21津島市計画(平成28年度～平成37年度)

発行/平成28年3月

津島市 健康福祉部 健康推進課

〒496-0863 津島市上之町1-60

電話 0567-23-1551

ホームページ <http://www.city.tsushima.lg.jp/>